

大板井遺跡 23

福岡県小郡市大板井所在遺跡の調査報告
小郡市文化財調査報告書第245集

2009

小郡市教育委員会

〈例 言〉

1. 本書は、福岡県小郡市大板井字屋敷40-1の一部における農業用倉庫建設に伴い消滅する埋蔵文化財について、平成19年度に国・県の補助を受けて小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 本書に掲載した遺構実測は、担当（佐藤）が行い、遺物実測・製図は白木千里・柿本慈・久住愛子が行った。
3. 遺構写真は佐藤が撮影し、遺物の写真は「写真工房 岡」の岡 久夫が撮影した。
4. 遺構実測図中の方位は真北を示し、座標は国土座標によっている。
5. 本文並びに写真図版における遺物番号は、挿図における番号を示す。
6. 略号として、Kは土坑を、Pはピットを表す。
7. 本書の執筆・編集は佐藤が行い、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管管理している。

<序 文>

小郡市ではこれまでニュータウン開発や工業団地造成などの大規模開発に対応して数多くの発掘調査を行ってきました。近年では市内の主要幹線道路整備に伴う小規模な宅地や店舗の開発のほか、個人住宅や個人用農業用倉庫の建て替えも盛んに行われるようになり、これら緊急発掘調査の対応により、小郡市内の各地域における詳細な歴史像が次第に明らかになりつつあります。

今回報告する「大板井遺跡23」は、範囲も限られた小規模な調査ではありますが、市内でも主要な弥生時代の拠点集落である大板井遺跡の広がりが確認され、新たな資料を加えるものとなりました。

残念ながら遺跡は建築工事と引きかえに消失することになりましたが、今回の発掘調査が生かされるとともに、今後の文化財保護の向上に役立つことを願ってやみません。

調査にあたりましては、地権者の石橋繁子さんのほか、山本建設をはじめとする工事関係者の方には深いご理解とご協力を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

平成21年3月31日

小郡市教育委員会

教育長 清武 輝

<本文目次>

第1章 調査の経過と組織	1
第2章 位置と環境	2
第3章 遺構と遺物	3～7
図 版	8～11
報告書抄録	巻末

<挿図目次>

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	1
第2図 調査地点位置図 (1/2,500)	2
第3図 遺構配置図 (1/40)	4・5
第4図 K：土坑実測図 (1/40)	6
第5図 出土遺物実測図 (1/3・1/1)	7

<図版目次>

図版1	8
①調査区全景（北から）	
②調査区南側（K-2周辺）	
③調査区中央（K-3・12周辺）	
④調査区北側（K-4・5周辺）	
⑤K-1土層	
⑥K-6・8土層	
⑦調査区北壁土層	
図版2	9
①調査区西壁土層（北側）	
②調査区西壁土層（南側）	
③K：土坑・P：ピット出土遺物	
図版3	10
①K：土坑出土遺物	
②K：土坑出土遺物	
図版4	11
①P：ピット出土遺物	

第1章 調査の経過と組織

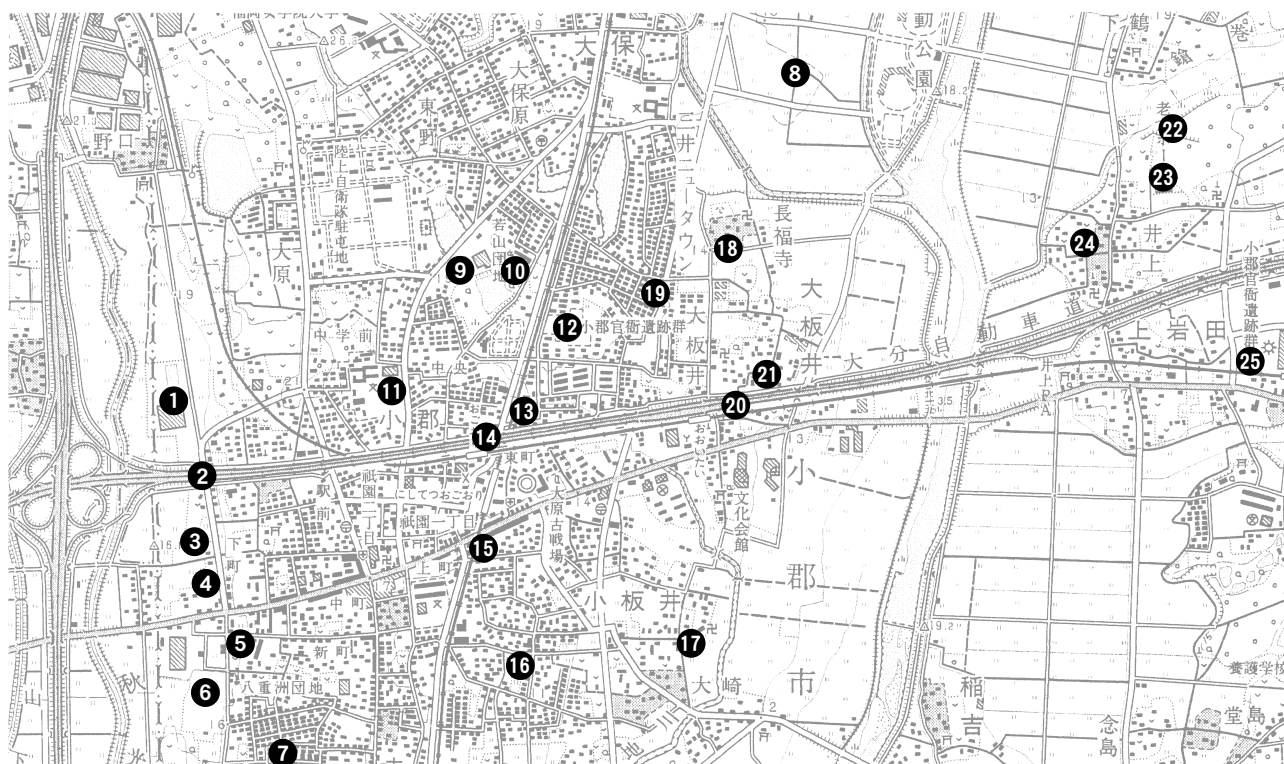
大板井遺跡23の調査は、農業用倉庫建設に先立ち、小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無について照会があったことに始まる（審査番号7073）。照会を受けて平成19年11月15日に試掘調査を行った結果、地表下30～50cm下で遺構を確認した。倉庫の基礎が地表下150cmにまで及ぶため、倉庫建築箇所全体について発掘調査を行うこととなった。なお、今回の建設工事が個人用の農業用倉庫だったため、市内遺跡発掘調査等（文化財関係国庫・県費補助事業）にて対応することとなった。

現地調査は、11月19日（月）に重機による表土剥ぎを行い、翌20日（火）より作業員を導入して遺構の検出と掘り下げを順次行った。27日（火）には調査区全体の写真撮影を行い、28日（水）・29日（木）で実測作業を行った。11月30日（金）には重機による埋め戻しを行い、現地作業を終了した。報告書は平成20年度に作成した。

調査の体制は以下のとおりである。

（平成19・20年度）

小郡市教育委員会	教育長	清武 輝
教育部	部長	池田 清己（平成19年度） 赤川 芳春（平成20年度）
文化財課	課長	田籠千代太
	係長	重松 正喜
	企画主査	片岡 宏二
	技師	佐藤 雄史
〔現場作業員〕		山本睦子・松本スマ子・山田和子・松田徳代



- | | | | |
|---------------|-------------|-------------|----------------|
| 1. 小郡川原田遺跡 | 7. 寺福童遺跡 5 | 13. 小郡向築地遺跡 | 19. 大板井遺跡10・18 |
| 2. 小郡正尻遺跡 | 8. 大保横枕遺跡 | 14. 小郡前伏遺跡 | 20. 大板井遺跡 6・19 |
| 3. 小郡正尻遺跡 2～4 | 9. 小郡中尾遺跡 2 | 15. 小板井京塚遺跡 | 21. 大板井遺跡23 |
| 4. 小郡野口遺跡 | 10. 小郡若山遺跡 | 16. 大崎井牟田遺跡 | 22. 井上小松山遺跡 |
| 5. 小郡堂の前遺跡 | 11. 小郡中尾遺跡 | 17. 小板井屋敷遺跡 | 23. 井上南内原遺跡 |
| 6. 福童山の上遺跡 | 12. 小郡官衙遺跡 | 18. 大板井遺跡12 | 24. 井上廃寺 |
| | | | 25. 上岩田遺跡 |

第1図 周辺遺跡分布図（1/25,000）

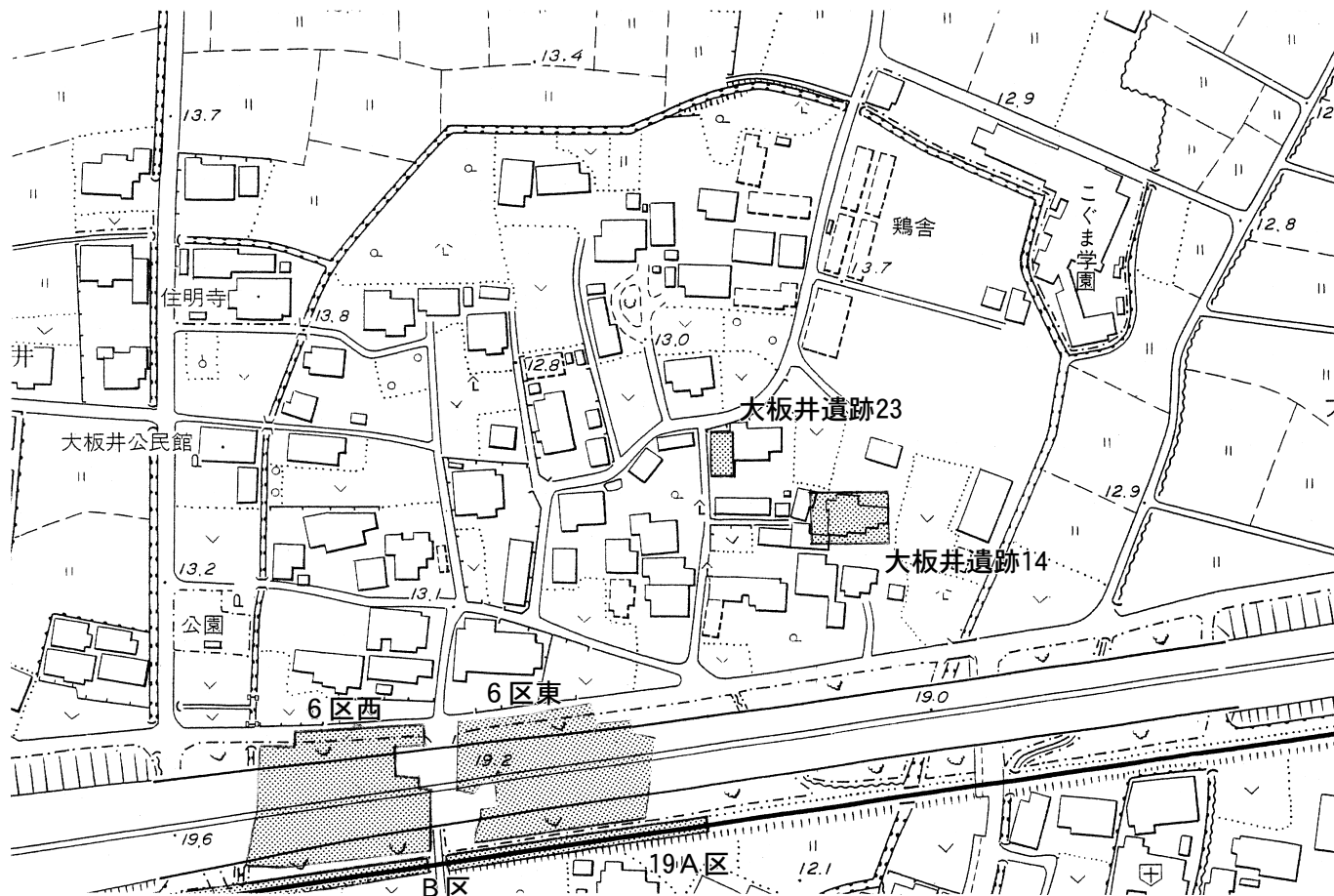
第2章 位置と環境

大板井遺跡23は、宝満川の西岸、三国丘陵からなだらかに続く低台地上に位置し、宝満川を直接望む台地の縁辺部にあたる。大板井の地名は、『倭名抄』に見られる御原郡4郷の一つ「板井」に由来すると考えられ、古代には集落のまとまりが形成されていた。江戸時代には旧秋月街道沿いの一村として存在し、近年では市内の道路環境整備もあり、農村から徐々に市街化が図られてきた地域である。

大板井周辺では、市内でも主要な遺跡がいくつか存在する。その筆頭は国指定史跡の小郡官衙遺跡（小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡 上岩田遺跡）で、7世紀中、7世紀後半～8世紀中、8世紀後半の三期にわたる官衙遺構の変遷が明らかにされ、古代筑後國御原郡の郡役所に比定されている。小郡官衙遺跡周辺では正倉群（大板井遺跡X）・集落（向築地遺跡）・官道（小郡前伏遺跡）・周縁地における版築状盛土による造成（大板井遺跡18B）等、様々な関連遺構がこれまでに見つかっている。また、小郡若山遺3では弥生中期前半から中頃にかけての集落が調査され、集落内より多紐細文鏡二面を埋納した土坑が検出されている。近隣では小郡官衙遺跡・小郡中尾遺跡2・大板井遺跡等でも同時期の大規模な集落や墓地が確認されており、当地周辺における拠点集落の存在を物語っている。

大板井遺跡は、1923年に中山平次郎博士により『筑後國三井郡小郡村大字大板井の巨石』が紹介されたのに端を発し、1935年には現甘木鉄道の軌道敷きの土取りにより銅戈7本が発見されるなど、古くから注目を集めてきた。大板井遺跡23の周辺では、東側に隣接する大板井遺跡14で弥生時代前期前半の貯蔵穴や住居跡が検出され、集落の初現を示しているほか、南西に隣接する大板井遺跡6・19ではそれ以降中期後半にかけて集落が展開する様子が確認されている。

今回調査した大板井遺跡23は、検出した地山も脆弱で、性格を物語る明確な遺構も検出されなかったことから、大板井遺跡群内にいくつか存在する遺構密集エリアの周縁にあたるものと思われる。



第2図 調査地点位置図 (1/2,500)

第3章 遺構と遺物

発掘調査面積は50m²で、遺構検出面の標高は12.60m 前後を測る。検出した遺構は、K：土坑が13基とP：ピットが50穴余りである。遺構の残存状況は悪く、平面形も不整形ものが多い。遺構検出面の地山は、淡黄褐色粘質土が一部に残り、その下がすぐに灰褐色の砂となる。造成等により削平されている可能性もあるが、大板井遺跡14と比べても土地が低く、遺構の密集度も低かったと考えられる。

<K：土坑>

K - 1：調査区南壁沿いの検出で、検出長1.05m、幅0.7m、深さ0.55m を測る。埋土は人為的なもので、黄褐色粘土上面が焼けて赤化しており、何らかの燃焼遺構の可能性もある。陶器の挿鉢と土鍋が出土した。

K - 2：調査区南側の検出で、1.05×1.05m、深さ20cm程度の不整形な形状をなす。出土遺物はいずれも弥生土器で、丹塗磨研の壺のほか、甕、蓋が出土した。壺の内面調整は板状工具によるナデである。

K - 3：調査区中央付近からの検出で、1.0×1.4m の方形状をなす。深さは10cm程度である。

K - 4：調査区北側の検出で、1.0×0.5m の長楕円形の形状をなし、深さは25cmを測る。

K - 5：調査区北側の検出で、1.1×0.8m の楕円形状をなす。深さは25cm程度である。出土遺物はいずれも弥生土器で、甕、壺、器台の小片が出土した。

K - 6：調査区北西隅、壁際の検出で、K - 8よりは古い。全体の形状は不明で、深さは25cm程である。弥生土器甕と器台の破片が出土した。

K - 7：調査区北側の検出で、2.1×0.6m の細長い長方形で、東側部分はピット状に落ち込む。5 - 15は青磁碗（青磁釉は外面のみ）の外面に緑と茶色で草文（ススキ）の上絵を施した近代以降のもの。5 - 16は押し型で蛸唐草文を施した白磁の紅皿である。

K - 8：調査区北西隅からの検出である。全体の形状は不明だが、土坑の立ち上がり之急で掘り込みも深いと考えられ、井戸の可能性もある。5 - 17は染付の徳利で、格子丸文などを描く。内面に墨が付着する。5 - 18は陶器の徳利で、外面と底面に藁灰釉をかける。

K - 9：調査区北壁近くからの検出で、土坑本体は0.85×0.55m、深さ10cm程度の落ち込みをなす。5 - 20は瓦器もしくは土師質の甕で、内面にハケメ状の調整をなし、外面にはカキ目状の痕跡を残す。5 - 19は染付の碗で、外面に梅花文と菊花文を施す。

K - 10：北壁沿いからの検出で、全体の形状は不明。

K - 11：調査区中央東側、K - 12から続く浅い落ち込みの中から検出した。平面形は長楕円状をなし、長軸1.2m 以上、幅0.5m、深さ20cmを測る。5 - 21は瓦質陶器の甕で、外面の剥離が著しく、地中に埋め込まれて使用されていた可能性がある。

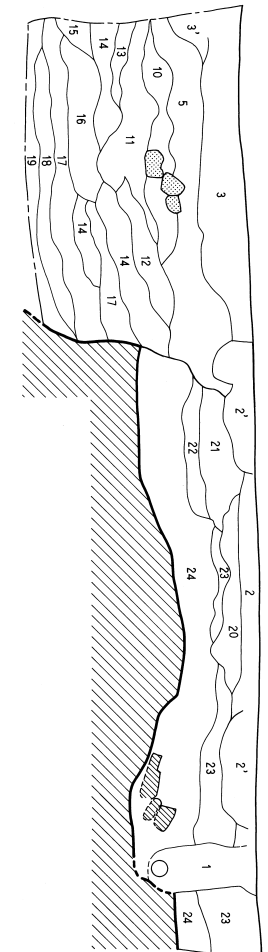
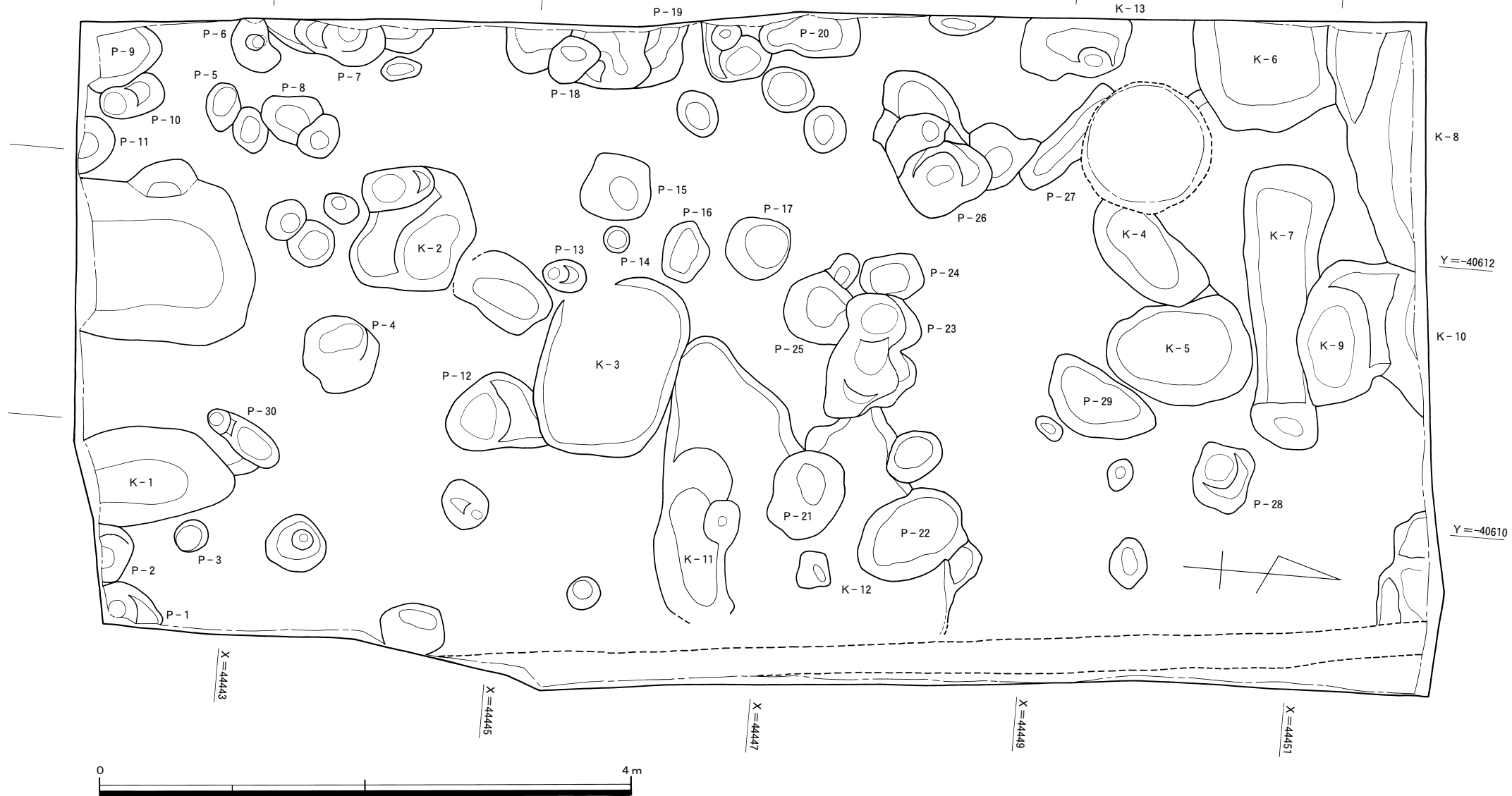
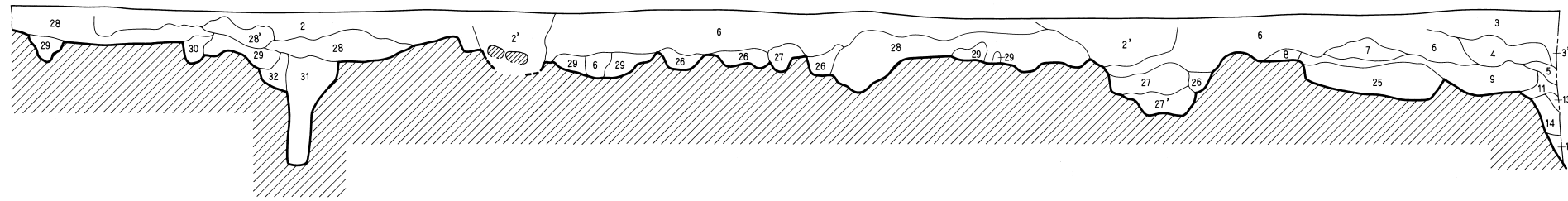
K - 12：調査区中央東側、K - 11を含む深さ10cm程度の浅い落ち込みである。全体の形状は不整形で、落ち込みの範囲は2.0×2.4m 程度である。弥生土器の甕の小片が出土している。

K - 13：調査区北側、西壁沿いからの検出である。全体の形状は不明だが、長軸0.8m、深さ40cm程度を測る。弥生土器の甕と壺の他に、安山岩製の打製石鏃が出土した。

<P：ピット>

ピットの埋土は、大半が淡黒灰色土～黒色土からなり、一部に灰褐色土からなるものが含まれていた。遺物を出土したピットは30穴で、図化が可能なものを第5図で紹介している。傾向としては、黒色土系の埋土のピットからは弥生土器が出土した例が多い。なお、ピットの最も深いもので60～70cm前後で（P - 7・21・22・23）、他は20～30cmと比較的浅いものが多く、裏込めを有する掘立柱等の柱穴は確認できなかった。出土遺物の内、5 - 29は土師器の坏、5 - 31は須恵器蓋坏である。5 - 28は弥生土器の小鉢で、外面及び内面に板状工具によるナデの痕跡が認められた。5 - 34は弥生土器甕の口縁部であるが、口縁外側の貼り付けが取れ、下地のハケメ調整が見えている。

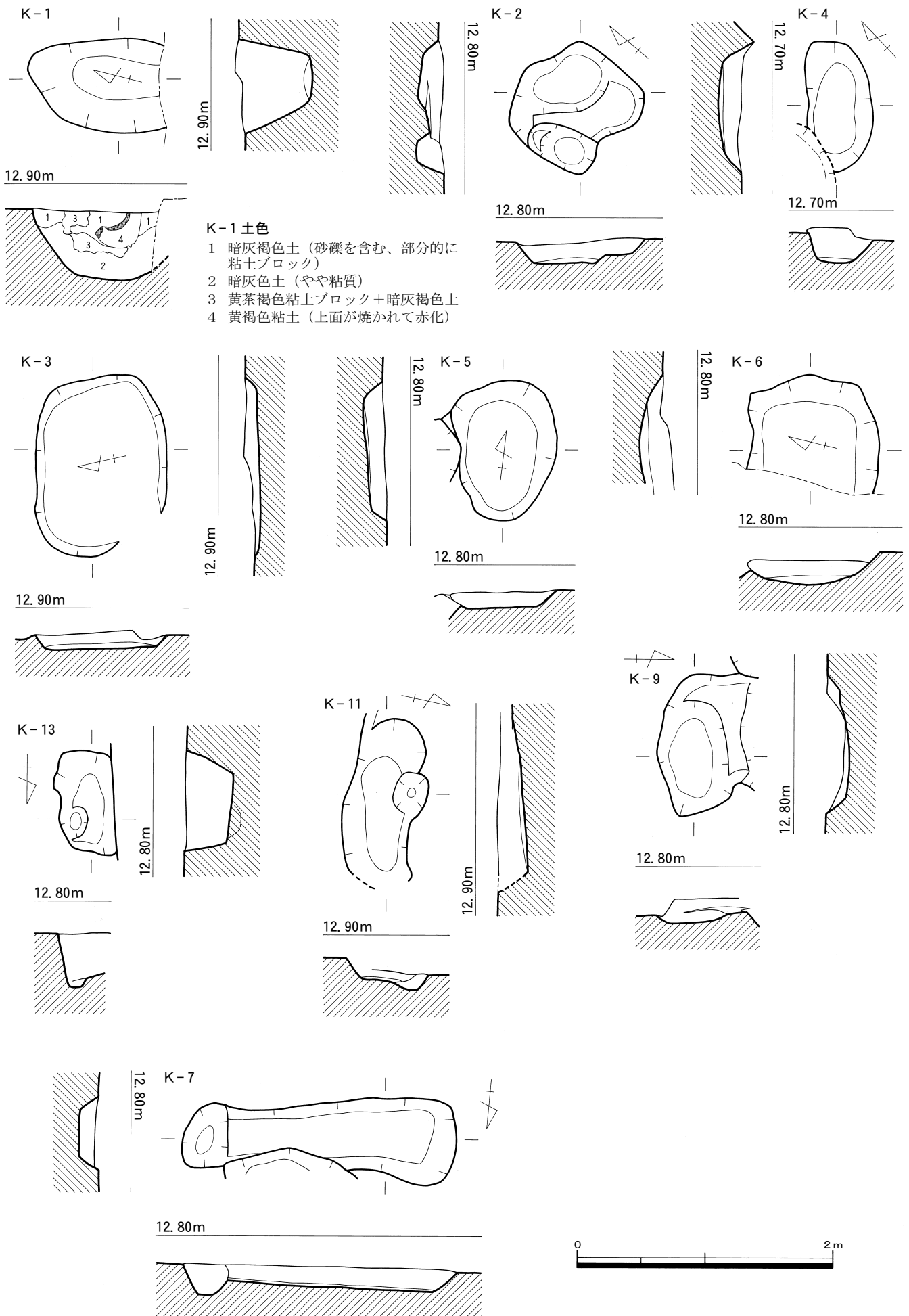
13.30m



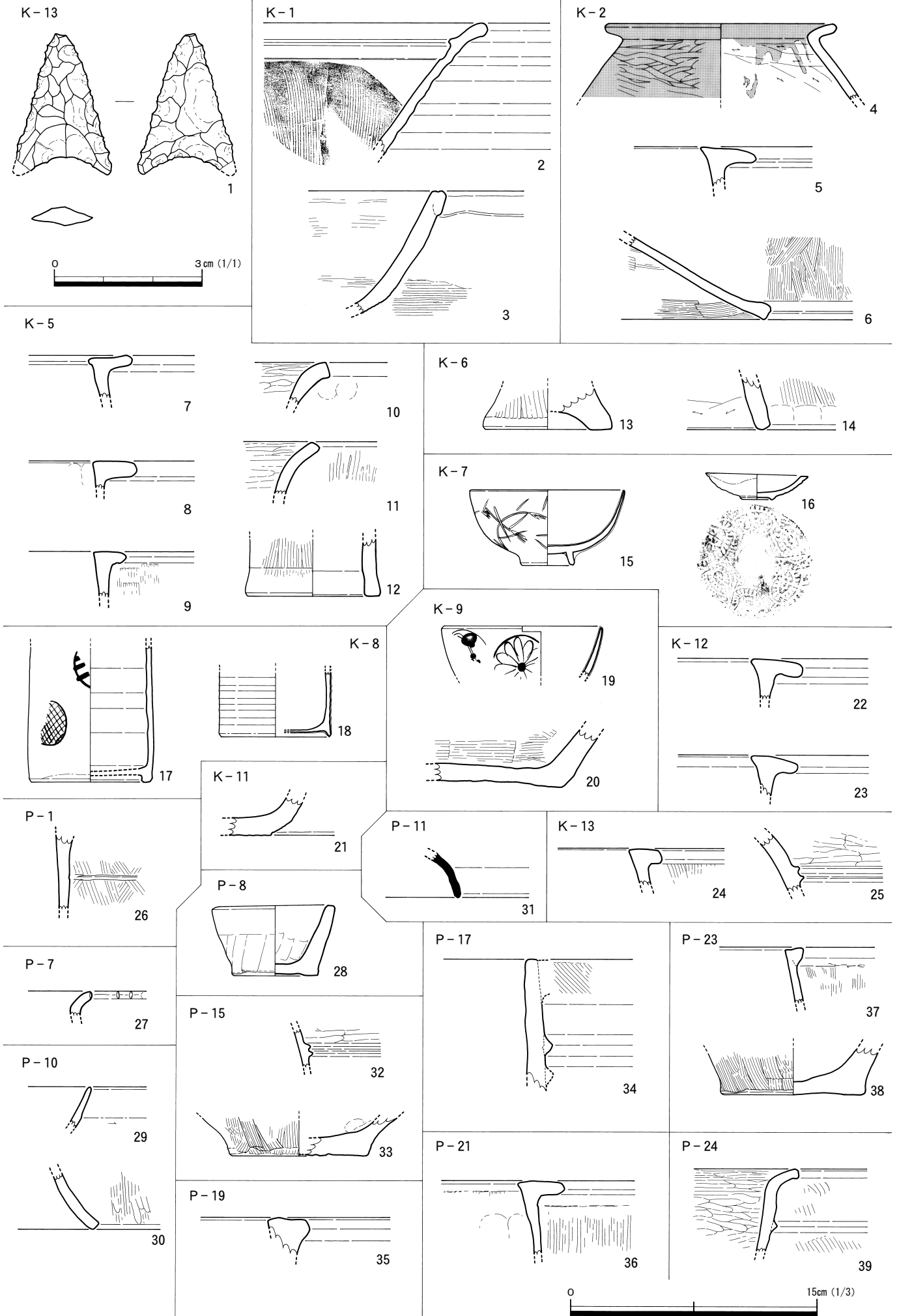
<第3図 土色>

- | | | | |
|-------------------|-----------------------|------------------------------|-------------------------|
| 1 水道管理土 | 7 やや褐色がかる灰褐色土 | 16 淡灰褐色砂 | 25 淡黒色土 |
| 2 攪乱土 | 8 褐色地山砂礫土 | 17 灰褐色砂 | 26 暗褐色土+褐色地山砂礫土 |
| 2' 攪乱土 (基礎栗石等) | 9 暗黒褐色土 | 18 黒褐色~茶赤褐色砂 (土中鉄分) | 27 砂礫を多く含む暗灰褐色土 |
| 3 暗灰褐色土 | 10 暗灰色土 (明褐色粘土ブロック含む) | 19 淡灰褐色砂 | 27' 砂礫を多く含む暗灰褐色土 (やや淡い) |
| 3' 暗灰褐色土 (瓦等多く含む) | 11 淡褐色~淡褐色砂質土 | 20 暗茶灰色土 | 28 暗茶褐色土 (砂を多く含む) |
| 4 淡褐色土 | 12 暗灰褐色砂質土 | 21 淡灰色粘質土 | 29 灰褐色土 (砂を多く含む) |
| 5 やや灰色がかる淡褐色土 | 13 灰色砂質土 | 22 淡褐色砂+暗灰褐色土 (互層状のタタキ) | 30 暗灰褐色土 |
| 6 灰褐色土 | 14 淡褐色~灰色砂質土 | 23 暗灰色土+淡褐色土+暗灰褐色土 (互層状のタタキ) | 31 淡黒灰色土 |
| | 15 灰褐色砂 | 24 暗灰褐色土 (炭・焼土を含む) | 32 暗灰褐色土 |

第3図 遺構配置図 (1/40)



第4図 K : 土坑実測図 (1/40)



第5图 出土遺物実測図 (1/3 · 1/1)

図版 1



①調査区全景（北から）



④調査区北側（K-4・5周辺）



⑤K-1土層



②調査区南側（K-2周辺）



⑥K-6・8土層



③調査区中央（K-3・12周辺）



⑦調査区北壁土層



①調査区西壁土層（北側）



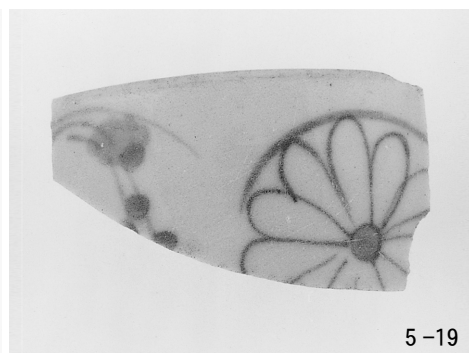
②調査区西壁土層（南側）



5-4



5-17



5-19



5-15



5-18



5-20



5-16



5-1



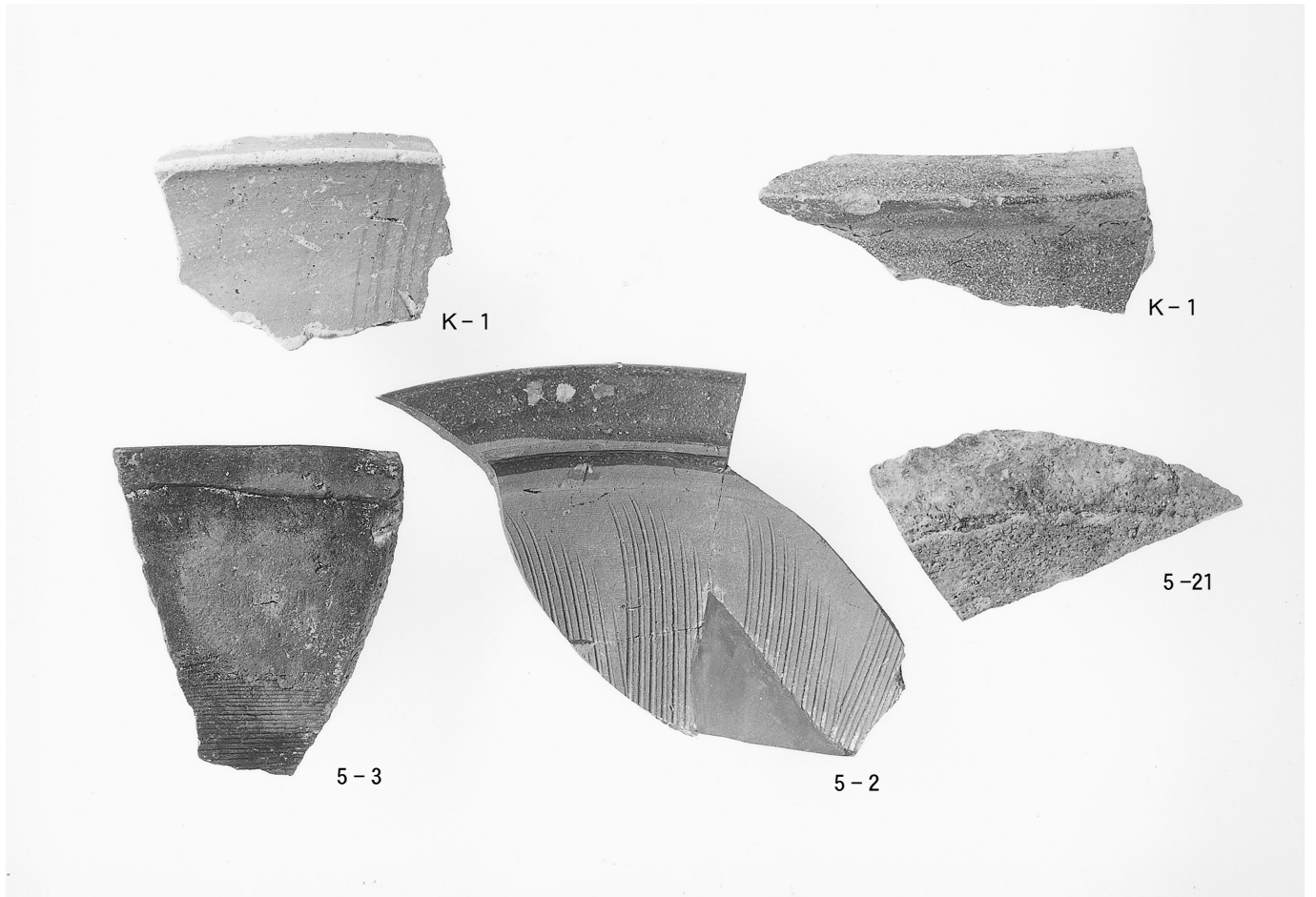
5-28



5-38

③K：土坑・P：ピット出土遺物

図版 3



①K : 土坑出土遺物



②K : 土坑出土遺物



①P : ピット出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおいたいいせき にじゅうさん							
書名	大板井遺跡 23							
副書名	福岡県小郡市大板井所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第245集							
編著者名	佐藤雄史							
編集機関	小郡市教育委員会文化財課 小郡市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒838-0106 福岡県小郡市三沢5147-3 TEL0942-75-7555							
発行年月日	2009年(平成21年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおいたいいせき 大板井遺跡23	ふくおかけん おごおりし 福岡県小郡市 おおいたいいせき 大板井	40216		33° 23' 48"	130° 33' 56"	20071119 20071130	50㎡	農業用 倉庫建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
大板井遺跡23	集落	弥生時代 江戸時代		土坑・ピット		弥生土器 陶磁器		

大板井遺跡23

小郡市文化財調査報告書

第245集

2009年3月31日

発行 小郡市教育委員会

福岡県小郡市小郡255-1

印刷 ハイウェーブデザイン

福岡県小郡市力武255-44